

アイヌ施策推進地域計画事後目標評価報告書

実施主体名	計画の名称	事後目標年度
北海道千歳市	千歳市アイヌ施策推進地域計画	令和5年度

1. 目標の達成状況

アイヌ施策推進地域計画における事後目標	目標値 A	実績値 B	達成率 (%) B/A	備考
①参加者数(担い手育成事業、イオル再生事業)	160 人	583 人	364%	
②交流者数(アイヌ文化国際交流事業)	0 人	0 人	—	隔年実施
②参加者数(アイヌ文化普及啓発事業)	450 人	1,047 人	232%	
③生活館観光利用者数 (アイヌ文化ツーリズム創出事業)	150 人	40 人	26%	
④デジタルサイネージタッチ数 (インフォメーション機能整備事業)	75 万タッチ	142 万タッチ	189%	
⑤千歳水族館展示室利用者数 (アイヌ文化ツーリズム創出事業)	15 万人	22 万人	146%	

アイヌ施策推進地域計画における事後目標	達成状況	備考
① 参加者数(担い手育成事業、イオル再生事業)	期待を大きく上回った	
② 交流者数(アイヌ文化国際交流事業)	令和5年度実績なし	隔年実施
③ 参加者数(アイヌ文化普及啓発事業)	期待を大きく上回った	
③生活館観光利用者数 (アイヌ文化ツーリズム創出事業)	期待を大きく下回った	
④デジタルサイネージタッチ数 (インフォメーション機能整備事業)	期待を上回った	
⑤千歳水族館展示室利用者数 (アイヌ文化ツーリズム創出事業)	期待を上回った	

(コメント)
○「担い手育成事業」、「イオル再生事業」に関する参加者数は、市民の関心も高く、多くの参加者に対し、より具体的なアイヌ文化の継承につながった。
○令和5年5月の新型コロナウイルス5類移行により、市内イベント等が再開されていく中で、zoom などのインターネット媒体も活用しながら、対象を広くとらえた「アイヌ文化普及啓発事業」の推進により、期待を上回る情報発信の成果につながった。
○生活館観光利用者数は、観光客の入り込みが低調し、実績は伸び悩みを見せた。
○デジタルサイネージタッチ数は、「道の駅」や空港での人の動きが活況へと転じ、目標値を上回る実績値を得た。

○千歳水族館展示室利用者数は、同館で行うイベントでの古式舞踊の公演などの相乗効果もあり、目標値を上回る実績値を得た。

2. 事後目標達成のために実施した各事業の進捗状況と効果

事業の進捗状況	事業実施主体
①「担い手育成事業」は、期待を大きく超える参加があり、順調に進んでいる。また、「イオル再生事業」は、令和5年度から開始した取組で、荒れた市有地で千歳アイヌ協会会員が自ら耕し、アイヌの暮らしに使われてきた樹木や草花等の自然素材を育成する取組であるが、専門家の指導と作業員の働きにより順調に進んでいる。	千歳市
事業の効果	
<p>○「担い手育成事業」として実施した手芸(アイヌ刺繍)講座や古式舞踊講座は、市民の関心が高く、募集定員が埋まる状況が続いている。特に古式舞踊講座は、児童館や放課後児童学童クラブで大勢の子どもたちを対象に実施。子どもたちは、普段はなじみのない舞踊を通じアイヌ文化への関心を高めていた。</p> <p>○イオル再生事業では、自然森づくり協会理事長や市内林業家などの指導を得ながら、3人の協会会員が市有地の約400㎡を耕し、伝統料理材料(アワ、イナキビ、馬鈴薯、カボチャ)や祭具の材料(ミズキなど)の育成を行った。天候に恵まれ収穫も良く、新年のアシリパノミの際のチポエプやシトの材料として活用した。</p> <p>○また、共有林野からの樹木等の採取や千歳川での鮭の特別採捕が認められたことと相まって、将来にわたりアイヌの伝統的生活に欠かすことのできない衣食住、祭事の原材料を確保する場所(イオル)を再生する足掛かりができたことの意義は大きい。</p> <p>○そのほか、「アイヌ文化継承講座開催事業」や「エカシ・フチの聞き取り」などを行い、祭事における儀礼作法の習得やエカシ・フチの貴重な体験を後世に残す記録に収めた。</p> <p>○両事業とも、参加者の熱心な技能等習得により実を得ており、アイヌ文化伝承活動の担い手のすそをを広げ、かつ、アイヌの暮らしの習慣や儀礼などの作法に関する文化の継承につながっている。</p>	

事業の進捗状況	事業実施主体
②「アイヌ文化国際交流事業」は、隔年で取り組む「先住民族間交流」として、令和元年度と令和4年度に千歳アイヌ協会等関係者が千歳市との姉妹都市アンカレジ市(アラスカ州)を訪問(令和3年度は、新型コロナウイルス蔓延防止措置により事業中止)した。令和5年度は実績なし。	千歳市
事業の効果	
<p>○2回にわたる「先住民族間交流」を通じ、アラスカ先住民族の現代社会における文化活動を学ぶと同時に、相手方国内の行事(令和4年アラスカ先住民族大会)へのゲスト参加や、小学校、博物館訪問を通じて、本市特有のアイヌ文化(精神文化・風習等)を国際的に普及することを実現した。</p> <p>○他国に認知され、かつ数次にわたる歓迎により、千歳アイヌ協会等関係者が自らの文化伝</p>	

承活動を推進することに改めて意義を見出し更なる推進につなげる機会となっている。

事業の進捗状況	事業実施主体
③「アイヌ文化普及啓発事業」では、「アイヌフェスタ」や市内大型イベントでの古式舞踊などの公演を通じ、千歳のアイヌ文化活動の普及に務めている。市外からの観光客も含め期待を超える参観者等に発信できるなど順調に進んでいる。	千歳市
事業の効果	
<p>○11月の2日間にわたり、道の駅に併設するサケのふるさと千歳水族館を会場とする「アイヌフェスタ」では、300人を超える参加者でにぎわい、古式舞踊や木彫り・手芸、マレク漁などのアイヌ文化を実際に体験する機会を設けた。</p> <p>○地域の神社祭りや支笏湖紅葉まつりなどの、人が集まる機会に千歳アイヌ協会等が出向き、古式舞踊を公演。大勢で踊る「ホリッパ」では、海外からの観光客を含む大勢の方が輪になって踊りに参加するなど、広くアイヌ文化を発信する機会になった。</p> <p>○市内外を問わずウェブで開催した「アイヌ語・口承文芸講座」では、全12回延べ143人が受講するなど、アイヌ言語に関わる精神文化や神謡などを幅広く発信している。</p> <p>○事業の推進により、受講者や観客としてアイヌ文化に興味と関心を持つ市民が増え、アイヌ文化を発信する側の踊り手や歌い手も、自主的・集団的に練習する時間を設け技術を高める取組も行われており、アイヌ文化の普及とともに、質の維持・向上にもつながっている。</p>	

事業の進捗状況	事業実施主体
④「アイヌ文化ツーリズム創出事業」では、蘭越生活館における観光客等の受入環境整備に取り組んでおり、案内板やパンフレット、展示物の充実など見学環境を整備したところである。	千歳市
事業の効果	
<p>○蘭越生活館への様々なパンフレットの配置、展示物の整備など、観光客受入のための環境は充実したが、長く続いたコロナ禍の影響や生活館としての施設の本来的な役割、位置的な問題により、観光利用者数は低迷しており、情報発信につながっていない。</p>	

事業の進捗状況	事業実施主体
⑤「インフォメーション機能整備事業」では、令和元年度に、新千歳空港国内線ターミナルビル内に2台、道の駅サーモンパーク千歳内に1台のデジタルサイネージを整備し、以来、アイヌ文化の伝承活動やウポポイまでの観光推奨ルートなどの情報発信を行っている。	千歳市
事業の効果	
<p>○コロナ禍で全体の観光入込が落ち込む中ではあったが、人の流れが回復傾向にあり、各施設におけるデジタルサイネージのタッチ数は期待以上の実績となっており、市民をはじめ北海道内外の観光客等への情報発信につながっている。</p>	

事業の進捗状況	事業実施主体
⑥「アイヌ文化ツーリズム創出事業」では、令和2年度から令和3年度にかけて、道の駅に併設する「サケのふるさと千歳水族館」内に、千歳のアイヌとサケ文化の繋がりなどを紹介する展示を整備している。	千歳市
事業の効果	
<p>○コロナ禍で全体の観光入込が落ち込む中ではあったが、人の動きが回復し、道の駅併設という地理的条件からも、「サケのふるさと千歳水族館」の集客数も拡大の傾向にあった。また、アイヌ文化普及啓発事業による「アイヌフェスタ」の開催などイベント開催との相乗効果により、千歳水族館展示室利用者数は期待以上の実績となっており、アイヌ民族や文化に対する来館者の理解促進につながっている。</p>	

3. 今後の方針等

<p>(コメント)</p> <p>○計画期間中、長く続いた新型コロナウイルス感染症拡大防止措置の影響と、観光施設ではない生活館の本来的な地域における役割との関係性から、「蘭越生活館への観光利用者数(アイヌ文化ツーリズム)」の目標達成は難しい面があった。</p> <p>○一方で、観光振興とは別に、「アイヌ」をキーワードとする映画や漫画などのサブカルチャーによる関心の高まりもあり、手芸や古式舞踊、言語、物語などの講座参加者の数は、期待を大きく上回る成果を上げている。</p> <p>○高齢化や労働者人口の減少、働き方の多様化やワークライフバランスの推進などにより、アイヌ文化活動に専念できる担い手不足は、千歳アイヌ協会等が抱える喫緊の課題である。</p> <p>○今後も、多様で創意工夫による「担い手育成事業」に取組み、また、今後の観光客流入の回復を視野に入れながら、「アイヌ文化普及啓発事業」を推進する。</p> <p>○令和6年度以降の各種事業は、令和6年度から令和10年度までの次期地域計画の推進によって実施し、千歳アイヌ協会等関係者の意見を踏まえながら、より効果的な事業となるよう、実施内容を適宜見直し推進する。</p>
--